

令和2年度 金沢消防団 広報便り

【目次】

<u>夜間水難事故対応訓練 12月</u>	・・・P1
<u>出初式一斉放水 11月</u>	・・・P2
<u>新入団員教育 11月</u>	・・・P3
<u>第七分団釜利谷ひろば公園訓練 11月</u>	・・・P4
<u>機関科教育及び交通防止研修 11月</u>	・・・P5
<u>ホースバック取扱訓練及び消防署連携訓練 9月</u>	・・・P6
<u>どんと焼き 1月</u>	・・・P7
<u>称名寺 消防総合訓練 1月</u>	・・・P8
<u>金沢消防団資機材取扱訓練 2月</u>	・・・P9～P10



広報便り

夜間水難事故対応訓練

第 20-011

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年12月15日



訓練に参加した第一分団の団員

署と連携し夜間水難事故対応訓練を実施



震災救助車両の照明の明るさを知る

金沢消防団第一分団（分団長 野本芳明）は、11月8日・29日の両日、並木船だまり（金沢区富岡東）において、署と連携し夜間水難事故対応訓練を実施し、各日も約30名の団員が参加した。水中に要救助者がいる想定では、団員は水上で捜索にあたる隊員や潜水員の視線の先を陸上から照明を操



水上・水中での捜索を見守る

作し照らした。団員は「照明下のこちら側と水上の暗闇の中では、同じ明るさでも、まぶしさが違う。目をくまませないように気を付けなさい」と話していた。また、団員は潜水員の水中からの合図を見極めようと、オレンジ色の浮き球から片ときも目を離せない様子だった。



水上の隊員の合図を確認する



捜索を行う隊員



広報便り

出初式一斉放水撮影

第 20-010

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年11月30日



集合し指揮者から命令を受ける

出初式一斉放水撮影を実施



カメラの前で池へ吸管をおろす

金沢消防団は、11月15日（日）、称名寺（金沢区金沢町）において、一斉放水の撮影を実施した。当日は、団員約60名及び撮影に当たるプロチームらが参加した。カメラ数台の他、ドローンによる空からの撮影も行なわれた。集合やホースの延長など場面ごとに入念なりハイスピードを行なうなど、撮影は進



号令にあわせ一斉に放水する

んだ。また、一斉放水は、幾度か繰り返し行い、撮影チームは、団員の筒先を持つ手や表情を映像に収めていた。撮影を終え、放水により防火衣がひどく濡れた団員は「水の効果で普段よりも、カッコよく映っているかも」と話し、映像の完成が待ち遠しい様子だった。映像は、令和三年、消防出初式で公開される。



撮影のため放水を繰り返す



ホース延長のリハーサル



広報便り

新入団員教育

第 20-009

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年11月27日



修了証を手にする新入団員

新入団員教育を実施



交通事故事例から安全管理を学ぶ

金沢消防団は、11月14日（土）、金沢区役所会議室において、新入団員教育を実施し、新入団員18名らが参加した。
学科では、仕事内容や団員に与えられた権限等を学び、団員は真剣な表情で聞き入っていた。訓練礼式では、敬礼や回れ右の動作などを学び、最初はよろけていたが、何度も繰り返し、習得していた。



号令に合わせて回れ右・敬礼の動作を行なう

第八分団に所属する大塚蒼人さんは「人の役に立ちたい。体を動かしたい」と入団した。救命救急にも興味があり、様々な場面で活躍したいと、今後の活動を楽しみにしている様子だった。最後に、入団して40年の先輩から「長い消防団員生活を活かしてほしい」と歓迎と激励の言葉が送られると、新入団員は笑顔を見せ、緊張が解けた様子だった。



第八分団 大塚蒼人さん



団長より修了証を授与される



広報便り

第七分団釜利谷ひろば公園訓練

第 20-008

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年11月20日



訓練を終えて笑顔を見せる大学生団員

第七分団 釜利谷ひろば公園にて訓練を実施



指導に当たる先輩と消防車へ走る

金沢消防団第七分団（分団長 小澤主昌）は、11月1日（日）、釜利谷ひろば公園において訓練を実施し、団員約30名が参加した。七分団には、大学生の団員が10名在籍し、うち6名が新入団員。横浜市立大学ボランティア支援室の協力を得て実施されたNOM（オンライン会議等を行うためのアプリケーション）での消防団の紹介を見て、入団



女性部長が見守るなか指導をうける女子学生団員

した女子大学生の森さんは「男性ばかりのイメージだったが、女性も活躍している。救命救急の講習も受けた」と話し、意欲的な様子だった。また、ある団員は、動作を真似ながら先輩団員による小型ポンプ操法を見学していた。指導に当たる団員は「真剣に取り組んでくれる。やりがいがある」と話した。



小型ポンプ操法訓練





広報便り

機関科教育及び交通事故防止研修

第 20-007

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年11月6日



運転者に合図し車両を誘導

機関科教育及び事故防止研修を実施



防火水槽からの水利を利用する様子

金沢消防団は、10月25日（日）、金沢区役所、及び金沢消防署車庫前において機関科教育及び交通事故防止研修を実施した。
当日は、団員34名が参加し座学と実習を行なった。機関科教育では、緊急時の消防車両の運行方法や交通規則を学んだ。
可搬式ポンプを用いての実習では、消火栓から水利を取る場合と防火水槽や河川の無圧水利を取る場合で



テープを張り運転席からの死角を確認

は、ポンプの取扱いの手順に違いがあるとの指導を受け、団員はポンプを操作しながら確認していた。
事故防止研修では、金沢警察署の交通課警察官より、事故現場の捜査手法から、車両運行時の注意点等の講習が行われた。団員は、ユーモアあふれる話に聞き入っていた。
区役所駐車場にて、分団に配備されている消防車の運転席からの死角を確認した



警察官による交通指導



ポンプを操作する団員

後、車両後退時、車両後方で運転者に的確に合図をする方法を学んだ。
団員は「思っていたよりも、車の前も後ろも見えていなかった」と話し、誘導の重要性を実感している様子だった。



広報便り

ホースバック取扱訓練及び消防署連携訓練

第 20-006

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年9月25日



ホースバックにホースを収める団員

ホースバック取扱訓練を実施

金沢消防団は、9月13日（日）、釜利谷ひろば公園（金沢区能見台）においてホースバック取扱訓練及び消防署連携訓練を行なった。ホースバックは昨年消防団に新たに装備された資機材で、団員からの「使い方を詳しく知りたい」という要望に署が応えるかたちで訓練が実現した。

当日は、団員約20名が参加し、ホースバックに精通した東富岡消防出張所の消防隊員が指導に当たった。隊員は、取り扱いについて、いねいに説明するとともに、実演を行なった。

指導を受けた団員は、まず2本の65ミリホースを折りたたんで結合し、バックに収めた。

そして、約18キロになったバックを肩に担ぎ、消防車の放水口にホースの端を結合。

火点方向へ前進すると、バックからホースが引き出されて伸びていき、約40メートル



指導を受ける団員（上）（左下）



バックにホースを収める団員（下）

動作を確認する団員（上）



ホースを伸ばす団員

トル先までホースを延長した。

訓練に参加したベテラン団員は「2重巻きホースを一気に転がして延長する方法に馴れているが、階段や曲がりくねった路地では、

ホースバックを使用しての延長方法が活用できる」と話していた。

消防団と署は、「今後も、連携して各種訓練を実施し、災害現場に備えていきたい」としている。



広報便り

令和2年どんと焼き

第20-003

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年1月26日



雪中のどんと焼き



1月18日(土)金沢区「海の公園」にて10時より令和2年「第25回どんと焼き」が開催された。あいにくの天気で開催が危ぶまれていたが、なんとか開催することが出来た。午後からは雪となり、寒い中でのどんと焼きとなった。消防団からは、団本部、第二分団、第四分団、第五分団、広報委員の参加であった。



テントは1張りで、ポスターの展示と、子供用防災服とオレンジ色の子供服つなぎ消防士の着用を行った。寒さのためストーブを使用した。テント内は窮屈な状態だったが、子供たちは狭さも寒さも気にせず、満面の笑みをうかべていた。来場者が例年に比べ少ないため、残念ながらチラシの配布は予定枚数を配ることができなかった。



どんと焼きは3基、みごとに火がまわり、雪にも負けず、高く炎が舞い上がった。燃え残りもなく、きれいに燃えた。また、全員黄色のカップを着衣しての餅つきは見慣れない光景であったが、湯気があがり、力強さを感じられた。この日は豚汁のテントが一番人気だったようだ。



広報便り

称名寺 消防総合訓練

第20-004

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年1月26日



「文化財防火デー」にあわせ消防総合訓練実施



第二分団、第四分団、
第五分団による一斉放水

1月26日(日)金沢区金沢町「称名寺」で、「文化財防火デー」に先立ち、消防総合訓練が行われた。國原金沢区長、称名寺関係者、地域住民、県立金沢文庫の職員、金沢消防署、金沢消防団など約90名の参加となった。訓練は称名寺裏山で発生した火災が本堂へ燃え移ったという想定で実施され、称名寺職員が消火器で初期消火、地元住民は境内の阿字ヶ池から息が合ったバケツリレーとホースによる放水を行った。



称名寺職員が、金堂に収められた国指定重要文化財の弥勒菩薩などの模擬品を火がからまない場所に避難させた。消防車が出動し、その後、空にむかつて、第二分団、第四分団、第七分団による一斉放水が実施された。



「金沢区は横浜市の中でも多くの文化財を抱えており、文化継承を担っている。地域住民、消防署、消防団で連携し、守っていかなくてはならない」と、伊藤署長、野本団長が、ご挨拶された。





広報便り

金沢消防団資機材取扱訓練

第20-005

発行元：金沢消防団広報

発行日：2020年2月1日



釜利谷ひろば公園に金沢消防団集結



2月1日(土)金沢区「釜利谷ひろば公園」で、全分団参加の「金沢消防団資機材取扱訓練」が実施された。

一番乗りは能見台消防出張所の楯出張所長で、参加人数は70名であった。

内容は、エンジンカッター、可搬式ウィンチ、油圧ジャッキを行った。訓練は、ベテランから、初めてこれらの資機材を触る初心者までおり、はじめは緊張した状況だったが、消防署の方の丁寧な説明で安心したようで、熱心に取り組んでいた。



【エンジンカッター】
切断刃を高速回転させて鉄やコンクリートなどを切断できる。災害時、各種障害物の排除に使用する。

今回は、玄関ドア、鉄パイプ、丸太を切断した。普段訓練ができない実物の玄関ドアの切断は、皆の関心の高さがうかがえた。

スロットを引くときに後方確認を忘れ、切断時に、思い切り火花が飛び散ったり、慣れないせいか、ふらふらと安定できない状況もあった。慣れた手つきで難なく操作をする者もあり、さすが場数を踏んでいる消防団員というところも、多くみられた。



ポイント①
適切な角度(保護カバー下端を切断物に出来るだけ接近させる)にすると切断中の火花はかからない。

ポイント②
足は肩幅程度開き、左足を半歩前に出す。切断中は、切断刃の後方直線上に足を置かない。



【可搬式ウインチ】

動力を使用せずに人力操作によりけん引作業を行う資機材である。吊り上げ、横引き、引き上げなどにより、事故車両の引き離しや重量物の固定を行うことができ、人命救助に使用する。

今回は取扱いマニュアルを見ながら操作している者が多く、エンジンカッターに比べ、あまり慣れていない者も多かったが、コツが分かるとそれぞれスムーズな取り扱いが出来るようになっていた。

ポイント①

ワイヤロープは鋭利な部分に当てて使用しない。

ポイント②

器具に砂利や砂、泥などが入らないようにする。

ポイント③

実施時はけん引線上を跨いだり、近寄ったりしない。

ポイント④

慎重に操作を行う時以外は、「パイプハンドル」を出来るだけ大きく左右に動かす。



【油圧ジャッキ】

アタッチメントをつけかえることで、重量物や障害物の持ち上げ、切断などの作業を行うことができる。人命救助や破壊工作などに使用する。

今回は鉄パイプの切断を実施した。スムーズに動作しない様子もあったが、エアを抜いたことで改善したようだ。

ポイント①

必ず「プランジャー」が最後まで下がっている（最小位置まで戻す）ことを確認しBOXへ収納する。

ポイント②

ポンプを加圧した状態で「カプラ」の取りはずしは絶対に行わない。

ポイント③

ハンドル操作時にハンドルの真上に顔や体をちかづけない。